

さいわい通信

第8号
 2024年12月1日
 (株)さいわい企画
 編集 クリスチャン・
 セレモニークラブ
 (C・C・C)事務局
 052-893-7323

2025年カレンダーは押し花絵

インタビュー 大野弘美姉 (日本基督教団豊田教会)



この度はさいわい企画のカレンダーに素敵な押し花絵を提供下さりありがとうございます。作品への想いなどお聞かせ下さい。

毎年大変好評を頂いております。二〇二五年版が完成いたしました。今年もクリスチャンの方が作品提供を快諾下さり、素晴らしいカレンダーが出来上がりました。そこで今号では作品を作られている、豊田教会の大野弘美姉にインタビューさせていただきました。(聞き手・杉浦)

宜しくお願いします。

はい、お願いします。

まず「押し花絵」というこんなに素敵な作品はどういう?

変なことという先生にしたらちやうど(笑)

伝えられるところまで。十三年か十四年やっていまして。今の先生のごころに行つて九年です。前の先生は自分で考えてやりなさいという感じでした。それは染み込んでいると思えます。でも自由なやり方で今の先生の所に行つてよく叱られました(笑)

工夫が自由です。そうそう。「なんか違う。後で直してあげたいと思つても直してあげないでください」とか「順番が違つ」とかいろいろ注意されたことばつたります。

きつかけは何があったのですか?
 はじめフラワーアレンジメントを習つていたんです。紅茶コーディネーターという資格を持っています。それはパーティを創る人なんです。テーブルの真ん中にお花を飾りたくて習つていたんです。でも夏になると花がすぐに腐るでしょ。何千円もかけてやっても三日かそこら。勿体ないなつて。じゃ夏だけブリザーブドフラワーにした。それは痛まないから部屋にいっぱいになって勿体ないし、花をやっているというより工作という感じがしない。そんなときフラワーアレンジメントの先生がちょっとずつてみないかと。先生の道具を借りてちょっとやってみた。そしたら最初は簡単だったけれど二枚目を作るときすごく難しくて「手に負えないわ」と思つたけれど、やってみると決めたからいいセツトとかいろいろ道具を揃えて、これだけお金をかけて

～押し花絵について～

大切に育てた庭の花はもちろん、毎日の散歩コースに生えている小さな草花や果物、野菜、木の葉や皮、苔などあらゆるものを押すことができます。

それらの一枚一枚を絵の具のようにおきながら光と影、遠近などつけることで立体的に表現することができて、一つの作品が出来上がっていきます。出来上がった作品は直射日光が当たらなければ長期間変色もなく保存することができます。

私にとっては煩わしい事から逃れて没頭できる唯一の時間になっていると思います。

(大野姉より)

限もありません。

素材はほとんどいろいろなところから始めました。四年くらい経つと、その先生の先生を紹介してもらつて、それが今の内山実枝子先生です。

作品にかかると時間は、それそれですね。まずこういうものを作りたいなど絵がきまると、花を選んで、それが一番大変かな。中には「これを使いたいから」から始まることもあります。

一つ一つの作品にはいろいろな花の数、種類が使われるのですか?
 それもそれぞれ。多いと二、三十、それじゃきかないくらいでしょうか。数種類の制限もありません。

西洋すずきとかトウモロコシの皮とか、サニーレタスやパセリも使っています。

『蛙の季節』の雨はネギで、水紋は玉ねぎです(笑)

パクチーとか買つてくると使い切らずに残るので、半分は押ししています(笑)

パセリもよく使います。

作品を教会にも飾っていますね。

季節を題材にして作れるもの、リースターだったりクリスマスだったり、花の日だったりの作品は教会に献品しました。

教会生活はどのくらいでしょうか。二十歳で

したから。ご主人と出会われる前から?

もちろん。

教会の方々も押し花絵を素敵だと言つてくれますね。

はい、展示会やコミュニティのお祭りなど皆さん来て下さいます。教会からの皆さんへのお誕生日カードは私が作った「押し花絵」で、牧師が聖句を書き込んで出しています。

それはもう方も嬉しいでしょうね。

色は変わってしまいますが、唯一のものですから喜んで頂けます。

闘病と祈り

作品作りが生活の中心になつてしまいませんか?
 そうですね(笑)前はそうだったかも知れませんが、お散歩に行つて草を探つてきてはそれを押ししたりとか。今はほとんどできないので買ってきたものでやっています。お医者さんにも止めなさいと言われているので、病気がなつてから変わつてきています。

闘病中ということをお聞



『ひだまり』

きました。差支えなければ、お聞かせください。

二年前にひどい黄疽が出てかかりつけの病院に行つたらすぐに豊田記念病院に行きなさいと。予約を取つてくれて、この日に必ず行きなさいと言われた。そんな病氣と思つていなかったのです。その日は稽古の日だから休めないと言つたら「そういうレベルの話じゃない」といつも優しい医者がすごく怒つた。「もしかしたら大変な病氣か」と思つて。最初の診断のとき、

「このままで六ヶ月生きられませんか」と言われた。すぐに入院して調べたら、膵臓の先端、胆管の間を塞ぐように腫瘍がみつかりました。黄疽の数値が下がるのを二ヶ月待つてから手術しました。

手術のための入院当日、朝から発熱があり口ナノこともあつてどうしたらいいかと慌てました。とにかく早くても病院に行くしか

ない行ったらまたま主治医がいて直ぐに入院となりました。発熱の原因のせいですぐに手術が一週間後か、リスクもあり主治医もすぐに決められずに翌日の検査を待って他の先生たちと相談する。

その夜は本当に怖くなって神様に必死に祈りました。今まではきつと神様がなんとかしてくれて、絶対に守ってくれるくらいに思っていたのが、この時は本当に必死でした。「神様どうか助けて下さい」と。翌日、手術すると決まったら何が何だかわからないうちに手術が終わりました。それが二〇二二年の七月のこと。いま二年ちよつと経って、いろんなことがある時に、「これが最後かもしれないよ」という思いが常にあります。今回のカレンダーの

お話も最後かもしれない。やらなかったとき後悔しない自信があるかと問うた時やるべきと。

ちよつと前に内山先生の展示会があつてそこに生徒のお手伝いもあつてそのときもどうしようかと思ひながらやつていた。途中熱が出て、「どうか熱が下がってください」とお祈りしながら。身勝手なお祈りばかりです(笑)

体調はいかがですか？ 抗がん剤の投与を二月から続けているので貧血だったり、薬で手足の痺れがでたり、ふらつきたり、季節の変わり目は体調を崩しやすいです。そういうなかでの作品作りは楽しいです。全部忘れられる。だから内山先生には最後まで先生の生徒でいさせてくださいと言つて、先生も「オッケー、

み言葉を味わう

血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだにのみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

コリント人への手紙 第一

15:44 (新改訳 2017)

抗がん剤の投与を二月から続けているので貧血だったり、薬で手足の痺れがでたり、ふらつきたり、季節の変わり目は体調を崩しやすいです。そういうなかでの作品作りは楽しいです。全部忘れられる。だから内山先生には最後まで先生の生徒でいさせてくださいと言つて、先生も「オッケー、

すつかり寒くなり、クロゼットの奥からコートやマフラーを引っ張り出してきたことだろう。私たちは季節に合わせて衣替えをする。そうしないと寒くて仕方がないからだ。私たちが神の国に入るために、血肉のからだから御霊のからだへと衣替えをしなければならぬ。聖い神の御前で永遠に生きる時、朽ち果てるか

任せ「おけ」つて言つて下さる(笑)

闘病中の作品『あなたへ』に込められた思いとは？ うちの子どもの孫も教会に行つていませんが、私たちが教会にも行つてほしいし、できれば最終的にはたどり着いてほしい。少女の掌のハートにはそんな思いがあります。ほかにも勇気だったり希望だったり、いろんな人がいろいろな思いを持っていて。それを全部込めました。日本の茶道や華道の伝統にもいいところがたくさんあります。教会の若い人

ただは耐えられない。神の国が地に来る時、私たちは朽ちないからだでよみがえり、一瞬のうちに変えられる。私たちの本当の人生の物語は終わりのラッパとともにめくられるのだ。

一麦ゴスペルチャーチ 牧師 山下義道

作品に込める想い

「愛とは大きな愛情をもって小さなことをすることで」という言葉です。先ほどの話と共通する思いもあります。あと『ひだまり』という作品(表面参照)はある作品展で豊田市長賞を頂きました。先生の作品の『ひだまり』を見たとき足

にも私を通して何か良いものを伝えて残していきたいという思いもあります。表紙に選んで頂いた作品はマザーテレサでした。

『愛とは大きな愛情をもって小さなことをすることで』という言葉です。先ほどの話と共通する思いもあります。あと『ひだまり』という作品(表面参照)はある作品展で豊田市長賞を頂きました。先生の作品の『ひだまり』を見たとき足



『あなたへ』

が動かなくなつて暫く立ち止まって見ていたくらいでした。衝撃的でした。ぜひそれを作らせてほしいと。麩饅頭の敷いてある山帰来という葉っぱを押し花にするのに、夫と二人で麩饅頭をたくさん食べたり(笑)

教会のテーマですと『イースター』という作品も。もう召されました江連博治先生がとても喜んでくださいました。この作品はイースター当日に出すのですが、それまでは時計草、パッションフラワーといったイエス様の受難を表す花の作品を受難節の間に飾つて、イースターの朝替えます。また花の日などは作品をしおりにして配っています。

私に集中しているのご主人のご飯は後回しですね？

私の生きた時間

お花を押している時には急がないと花がすぐに落ちてしまふのであるべく早くやるほうが奇麗ですね。ドクダミの花なども咲きかけているときのほうが奇麗に押せる。全部開いてからだと色が黒くなつたり、押す時期には作業が大変で、そうすると弁当を買いに行くことになる(笑) 夫が仕事していた時は、いない日にばつと広げてやれるのですが、今は大きなものができなくて文句ばかりです(笑)

二時間半の教室でつくることが多くなりました。そうすると時間はかかりますね。でも、これが生きた時間です。ね、私の。終活しなきゃ、片づけなきゃとも思います。が、片づけてしまふと私生活

みんなの絵本

『せいなるよるは おおさわぎ』

ニコラス・アラン 作 関谷 義樹 訳 ドン・ボスコ社

最初のクリスマス物語を描いた絵本は数えきれないくらいあるでしょう。そんな中で、主人公はイエス様でも羊飼いででもない、そんな一風変わった絵本をご紹介します。

主人公はヨセフとマリアがやつとの思いで見つけた宿屋の主人。眠ることが大好きなのに、様々な邪魔が入るため全く寝られませんが、次々やってくる来訪者たちと宿屋の主人が繰り返すやり取りにはクスツと笑えてしまいます。果たして主人は心地良い眠りにつくことができるのでしょうか…… (藤田)

編集後記

大野さんのインタビューを教会でさせて頂いてる折、周りの方から、美術館を作ろうと。そんな話にたくさん作品がないという大野さんに、「これからたくさん作ればいい。長く生きて」と。そんな素敵な希望がどうかどうかないますように。(杉)

カレンダー制作に携わらせていただきました。素晴らしい押し花絵に感動しました。(山)

葬儀のためお伺いした豊田教会で偶然に大野さんの作を拝見しとても素敵だと思つていました。こうしてカレンダーになり、みなさまにも見ていただくことができ嬉しです(藤)

